

## 第 57 回 全道へき地複式教育研究大会 檜山大会に向けて

全道へき地複式教育研究大会檜山大会研究部長

長 畑 一 幸

### はじめに

昨年秋、第 57 回全道へき地複式教育研究大会檜山プレ大会を開催し、無事終了することができました。全道各地より 400 名を越える多数の参加を得ることができ、研究協議では皆様方より研究の充実・深化に向けて貴重なご助言・ご意見をいただき、心より感謝とお礼を申し上げます。また、本大会開催に当たりまして、道へき・複連、檜山教育局、各町教育委員会、そして、道へき・複連加盟校等の皆様の特段のご支援とご協力を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

檜山大会では、全道のへき地複式教育のさらなる充実・発展を目指し、大会実行委員会を組織して会場校はじめ各町加盟校、檜山各町小学校及び中学校等との連携・協力体制を組み、本大会成功に向けて準備を進めています。

### 1. プレ大会の成果と課題

檜山プレ大会は、昨年 9 月 27 日の湯ノ岱小、種川小を皮切りに、9 月 28 日明和小、玉川小、館小、10 月 5 日島歌小、11 月 9 日平田内小と管内 7 分科会 7 会場において開催いたしました。

以下、その主な成果と課題です。

#### 成 果

- (1) 北海道へき地・複式教育研究連盟「第 7 次長期 5 か年研究推進計画」を受けた課題を各会場校の研究課題として取り組むことができた。
- (2) 具体的に取り組む共通課題は「確かな学力の向上」である。そのポイントとなるのが従来より取り組んでいる指導過程「問題解決的学習」であり、へき地・複式校の特性を活かした「個に応じた指導」であることを確認しながら、研究を推進できた。
- (3) 会場校では、研究内容の整合性を図りながら研究の視点を明らかにし、より深く研究を

進め、研究（教育）の本質に迫る取組にすることができた。

#### 課 題

- (1) 本大会は、教育改革という大きな流れの中での研究大会である。今後の教育の動向も視野に入れ、「目の前にいる子どもをどのように育てるか」という全ての学校職員、地域・保護者、教育関係者に共通した「願い」を実現していく取組が所期の目的である。その具体的な実践発表が授業であり、大会関係者、大会参加者のみならず、保護者等にも理解される研究内容にすることが大切である。
- (2) 準備期間が短かったこともあり、各校の研究主題の設定や研究推進に関わる作業が大変であった。特に研究主題の設定など研究の柱になることは、前年度の研究の反省や経営方針、年度の重点、学校評価などを通じて、決めていかなければならない。さらに、北海道へき地・複式教育研究連盟が提示している課題との整合性を図るも求められる。一連の作業に十分な検討と時間を有することが、各校の年度初めの大きな課題である。話し合いを多く持つことも重要であるが、その根拠となる資料を準備することが最も大切である。

### 2. 檜山大会の位置づけ

第 57 回全道へき地複式教育研究大会檜山大会は、第 7 次長期 5 か年研究推進計画の研究成果と課題をまとめ、第 8 次長計への展望を図る重要な大会であると捉え、次のように大会を運営し、研究を進めていきます。

- 実行委員会の縦と横の連携・協力、報告・連絡を密にし、組織を十分機能させ、共通理解を深めながら大会を運営する。
- 研究の課題と成果を明確にし、各校がどのような実践を発信するか明らかにする。
- 子どもは授業によって育てられる。その授業力を向上させていくことが学校の不易の課題である。そのポイントを、「問題解決的学習」の指導過程と「個に応じた指導」におき、その成果と課題を第 8 次長計への展望につなげる

本大会では忌憚のない意見交流ができますよう皆様のご参加を心よりお待ちしております。